

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：64401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320196

研究課題名(和文) 社会的包摂のための実践人類学的研究

研究課題名(英文) The Anthropological Study and Practice of Social Inclusion

研究代表者

鈴木 紀 (Suzuki, Motoi)

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授

研究者番号：40282438

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円、(間接経費) 4,080,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、社会的包摂(社会の福祉制度から排除された人々を再び社会に取り込むこと)をグローバルなレベルで展開するために、官・民(企業)・市民の3者がどのような関係を築くべきかという問題を考察した。そのためにフェアトレード運動、国際協力NGO活動、国際協力ボランティア活動、都市在住の先住民支援活動、無国籍者支援活動の5つの事例に着目し、民族誌的研究と相互比較を試みた。その結果、市民と民(、の場合)、市民と官(、の場合)の間で、情報を共有しながら問題解決に向けて相互補完的な機能を果たすこと、もしくは自分の機能に他者の機能を取り込むような工夫が重要であることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This study explores the desirable relationship between public sector, private sector, and civil sector in order to promote social inclusion on the global scene, which is an attempt to reunite people excluded from social welfare systems into the proper society. It consists of ethnographic studies of five different cases: 1) fair trade movement, 2) international development NGO, 3) international development volunteers, 4) support activities for indigenous people migrated to urban areas, 5) support activities for stateless people, and compares the results. It is suggested that the formation of complementary functions and/or the adoption of the counterpart's function are desirable between public sector and civil sector as well as between private sector and civil sector.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：開発・援助 社会的包摂 実践人類学 フェアトレード イヌイット 青年海外協力隊 NGO 無国籍者

1. 研究開始当初の背景

(1) 包摂と排除

社会的包摂とは、社会から排除された人々を再び社会に取り込もうとする試みを意味する。社会から排除されるとは、福祉国家のセイフティネットから落ちこぼれるという意味であり、1980年代のイギリス、フランスにおいて顕在化した長期失業・不安定就労・若年者雇用問題・家族の解体・ホームレス生活者や移民の増加などの現象をさして用いられていた。社会的包摂とは、こうした事態に対する社会政策の総称として登場した。

社会的包摂に関する学術的研究は、国内外とも、主に社会政策、障害者福祉やマイノリティ教育などの領域で行われてきた。これらの研究は、社会的排除の実態を踏まえ、公共政策の見直しや、市民自身による問題解決の必要性、社会企業への期待などを訴える。つまり官・民(企業)・市民の3セクターが機能を補完しあう、いわゆる「新しい公共性」が模索されていた。

(2) 新しい社会的排除論

ところが1990年代末より、社会的排除に対する新しい考え方が提唱されはじめた。A.S. Bhalla と F. Lapeyre の *Poverty and Exclusion in a Global World* (1999) では、社会的排除概念は先進国だけでなく、移行経済とよばれる東欧や中央アジアと、発展途上国にも適用された。さらに R. Munck の *Globalization and Social Exclusion* (2005) においては、社会的排除の根本原因を各国の国内事情に求めるのではなく、急激な資本の移動をとまなう経済のグローバル化と、その結果としての社会格差の遍在化(格差が世界各地の地域社会で生じること)にあると主張された。

(3) グローバルな社会的包摂論

このように社会的排除をグローバルな現象と理解すると、社会的包摂の研究にも新たな視点が求められることになる。一国内の社会的包摂の指針として提示されていた「新しい公共性」は、グローバルな舞台では何を意味するのだろうか。こうした問題意識から本研究は着想された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、グローバルなレベルで展開する社会的包摂活動において、官・民(企業)・市民の役割を明らかにすることにあった。グローバル社会では、官とは国際機関の活動や二国間の国際協力、民とは生産者の福祉を重視するフェアトレード(公正な貿易)などの経済活動、市民とは NGO や市民ボランティアの活動に相当すると想定し、こうした異なる主体によってどのように社会的包摂が推進されているかを明らかにしようとした。

その際、ミクロレベルの具体的な人間行動の観察に基づいてマクロレベルの社会動態を洞察することを文化人類学の特長と考え、社会的包摂を目的とするさまざまな支援活動の現場をフィールドワークすることにした。また単に社会的包摂に関する理論的な解明だけでなく、それを推進するための実践的な提言をおこなうことも重視した。そのため研究課題は「社会的包摂のための実践人類学的研究」とした。

3. 研究の方法

グローバルな社会的包摂を推進する支援活動として、フェアトレード運動、国際協力 NGO 活動、国際協力ボランティア活動、都市在住の先住民支援活動、および無国籍者支援活動の5つに着目し、研究代表者と分担者がこれらの事例について民族誌的研究をおこなった。これらを研究する理由は、いずれも、経済のグローバル化に起因する社会格差の拡大と遍在化の中で困窮している人々を、市民参加によって支援する活動という点が共通だからである。一方これらの支援活動は、支援対象の人々の包摂方法と市民の関わり方に大きな違いがある。この差異に着目することでグローバルな社会的包摂の多面性を認識することが期待される。

フェアトレード運動は、通常の貿易では十分な利益が得られない商品生産者を、フェアトレードというオルタナティブな市場に包摂する試みである。国際協力 NGO 活動と国際協力ボランティア活動は、開発途上国の経済成長の恩恵にあずかれない人々を、援助活動を通じてその国の国民社会に経済的に包摂しようとする。都市在住の先住民支援活動は、故郷の先住民コミュニティから都市へと移住した者を、都市を基盤とする新たな先住民コミュニティに包摂する活動であり、無国籍者支援活動は、難民や移住等により故国からも現住国からも国籍を否定された者を、本人が希望する国家に法的に包摂することを目標とする。市民の関わり方は、では消費者、では NGO などの支援団体のスタッフまたは支援者、ではボランティアとなる。本研究ではこれらの支援活動を参与観察し、相互に比較することによって、グローバルな社会的包摂が効果をあげるための条件を考察することにした。

4. 研究成果

(1) 事例研究の成果

- 1 フェアトレード運動(カカオとチョコレート): フェアトレードが1)カカオ生産者に及ぼす影響、2)チョコレート市場に及ぼす影響を調査し、3)フェアトレードを媒介とする生産者と消費者の相互理解の可能性について検討した。

まず、ベリーズ、ボリビア、コスタリカおよびガーナのカカオ生産地を訪問し、フェアトレードによる一定の経済的成功が祝祭な

どの文化的活動を活性化し、それがまた観光資源となって経済活動を促進する可能性を確認した。またフェアトレードによる利益を維持するためには、逆説的だが、非フェアトレード市場向けカカオ生産が重要になることが明らかになった。次にイギリス・フランス・ベルギー・オランダなどのチョコレートの小売市場を調査し、生産者支援を謳うチョコレートが一定の市場シェアを確保していること、およびフェアトレード以外にも生産者支援を目的とするさまざまな類似の制度や概念が登場していることが観察された。

しかしこれらの西欧諸国でもフェアトレードが生産者にもたらす効果に関しては、一般の消費者に十分な情報が伝えられているとはいえず、フェアトレードを推進する企業や団体による情報発信の限界が推測された。このため生産者と消費者の相互理解を促進するためには、消費者が生産地を訪問する観光が一つの有力な手段となるという見通しを得た。(鈴木 紀)

- 2 フェアトレード運動(手工芸品のフェアトレード):「宗教的信念に基づく社会的企業の展開」を明らかにするため、キリスト教再洗礼派メノナイトのメノナイト中央委員会(MCC)に関わる活動を源流とするフェアトレード企業「テンサウザンド・ヴィレッジ」に注目し、現地調査に基づき、その歴史、多様性、現代における活用について検討した。

もともとアメリカ国外における女性たちのクラフト作りとその環境に関する、アメリカの女性への関心と販売支援に始まったテンサウザンド・ヴィレッジが、目的の異なる数種のストアを展開し、さらに、多様な人々がストアを活用できる方法を開発してきた道筋と実践状況を、現地調査によって明らかにした。ストアの場所と目的、販売内容、教育活動などが重層化されるに従って、宗教やエスニシティ、年代などに関わらず多様な人々がストアの活動に関わってきた経緯が明らかになった(鈴木 七美)

国際協力 NGO 活動: ソロモン諸島マライタ島において有機栽培の技術指導をする日本の NGO の活動を調査した。とくに支援者と被支援者間の感情の摩擦や齟齬に着目した。その結果明らかになったのは、社会開発プロジェクトの持続性は常に広義のビジネス指向の文脈を必要としており、その文脈に沿った人材育成、商品開発、農法普及、管理能力の成熟を図る必要があるということである。調査対象の農業研修施設に、今後も日本の NGO が関わり続けたとしても、その役割は第一義的な支援者としてではなく、それをさらに一歩進めたビジネスパートナー的な存在でなければならない。持続性の観点からみて、ただ単に援助し続けることに限界があることは自明であるが、開発や近代化の文

脈における文化的要素を踏まえたビジネス指向のパートナーシップを追求することの必要性を、本研究を通じて確認することができた。(関根 久雄)

国際協力ボランティア活動: コミュニティ開発活動に取り組むボランティアとして青年海外協力隊員に焦点をあて、ネパール、フィリピン、ラオスの3カ国で活動中の隊員に対して聞き取りを中心とする調査を行った。隊員の活動の対象となる人々は、当該国において社会的弱者であるがゆえに社会的包摂の対象である場合が多く、この点で隊員の活動もこれらの人々に対する社会的包摂の働きかけの一つとして位置づけことができる。しかし、隊員が人々との間に十分な信頼関係を築くことができなければ活動は立ちゆかない。信頼関係を構築するためには、長期間共に暮らすこと、現地語の習得、共飲共食や祭宴を介した身体的・感情的交流などが、重要な役割を果たしていることが明らかになった。(白川 千尋)

都市在住の先住民支援活動: 調査研究がほとんどなされていない都市イヌイットについて、2012年8月にカナダ国ケベック州モンリオール地区において低収入およびホームレスのイヌイットの生活実態に関する聞き取り調査を先住民団体マキヴィクの協力のもとで実施した。その結果、カナダ極北地域から都市部へのイヌイットの移動が急増していること、とくに都市におけるホームレス・イヌイットが急増し、健康問題や社会問題、経済問題に直面していることが判明した。調査時におこなったインタビューをもとに、イヌイットの移動には極北地域における社会経済問題が深く関わっていることがわかった。本調査をもとに極北地域での対策と都市部におけるイヌイットの生活向上対策について報告書を作成し、関連先住民団体に提言を行った。その提言は、先住民団体マキヴィクやケベック州政府、モンリオール市によって具体的に政策やその実施に生かされつつある。(岸上 伸啓)

無国籍者支援活動: 無国籍者の支援がどのように展開されているのかを調査し、人類学が無国籍者の支援にどのような貢献ができるのかについて検討した。国立民族学博物館で開催された「世界における無国籍者の人権と支援 日本の課題」と題する国際シンポジウムに積極的に関わり、国内外の研究者、弁護士などと意見交換が実現し、これをきっかけに無国籍者支援においてさまざまな協働が行われた。また、人類学者による無国籍者の存在の発見、そしてフィールドワークを通じた情報収集や信頼醸成が、弁護士による法的支援につながっていくことも明らかとなっている。また、本研究では、大学生、NPO、国連とのコラボレーションによって、無国籍

支援を考えるワークショップも開催した。実際、学生団体や国連難民高等弁務官事務所において、無国籍支援活動が活性化しているが、本研究もその一助となった。(陳 天璽)

(2) 比較研究の成果

グローバルな社会的包摂における「新しい公共性」: 上記の事例研究はいずれも、グローバルな社会的包摂活動における官・民(企業)・市民の関係性に関して重要な知見を提供するものである。

鈴木紀と鈴木七美によるフェアトレード研究は、民が主導し市民が協力する社会的包摂の事例である。フェアトレード企業は消費者にフェアトレード商品の購入を促すために、フェアトレードの社会的意義をさまざまな形で訴える。それによって途上国の貧困や南北格差に対する消費者の問題意識が高まる点は評価できる。一方で、こうした社会的包摂はたえず企業収益とのバランスに配慮する必要があるため、それを妨げるような情報が消費者に開示される可能性は必ずしも高くない。企業には真摯な情報提供、消費者には適度の批判的な視点が求められることになる。

白川千尋が取り組んだ青年海外協力隊制度は、日本政府の開発援助の一環であるため、官による社会的包摂の事例といえる。しかし個々の協力隊員は市民ボランティアという性格も有し、その活動の成果は、白川が指摘するように、一市民として途上国の市民と交流し、その結果育まれる信頼関係に大きく依存する。つまり青年海外協力隊の成果は、官の枠組みの中でどれだけ市民の能力が生かされるかにかかっていると考えることができる。

関根久雄による NGO 研究は、市民による社会的包摂の試みの事例である。支援者である NGO スタッフと、被支援者である農業技術研修生との交流のあり方を重視する論点は、白川と同様であるが、関根は主に両者の感情のすれ違いを浮き彫りにした。さらにこうした交流の難しさを克服する方法として関根が「広義のビジネス志向」を指摘する点が重要である。市民による活動といえども、収益の確保や、目的達成のための合理的な手段選択といった点で、民の発想に学ぶ点が多い。

岸上伸啓があつかった都市先住民支援活動と陳天璽があつかった無国籍者支援活動も、市民による支援団体による社会的包摂の事例である。しかし関根の事例とは異なり、双方とも官による対応なしには解決が困難な問題を扱っている。カナダの都市イヌイットの福祉向上には、先住民団体とモントリオール市やケベック州政府との協働が必要となる。同様に、無国籍者問題は、市民団体が国連機関と協働して、各国政府機関をも巻き込むような、総合的な対策が求められる。つまり両事例は、官による社会的包摂を促すた

めに市民による活動が重要な役割をになう場合である。

このように各事例はグローバルな社会的包摂の取り組みにおいて、官・民・市民の間のさまざまな連携が必要となることを示している。少なくとも官と市民および民と市民の二者間では、情報を共有しながら問題解決に向けて相互補完的な機能を果たす、もしくは自分の機能に他者の機能を取り込むような工夫が重要であることが示唆された。

実践人類学としての成果

本研究では、研究成果を問題解決につなげていく実践性を重視していた。一部の事例研究では、そうした試みをすることができた。例えば、岸上の研究成果は、カナダの都市イヌイットの社会政策に貢献する可能性があり、陳の研究成果は無国籍問題の社会的啓発や、無国籍者支援の国際的ネットワーク形成に効果をあげている。また鈴木紀の研究成果は、国立民族学博物館の広報誌や、フェアトレードショップにおける講演会などの形で、一般に伝達されており、日本の消費者の間にフェアトレードへのインフォームド・コンセントを醸成する一助となっている。

内外の研究動向と本研究の特色

本研究の実施中に、国内では『社会的包摂 / 排除の人類学』(内藤直樹・山北輝裕編、昭和堂、2014年)、海外では *Ethnography of Social Support* (M. Schlecker & F. Fleischer eds., Palgrave macmillan, 2013) が刊行された。本研究の特色は、これらの研究とは異なり、社会的包摂をグローバルなコンテキストにおいて考えようとする点にあるが、社会的包摂を達成するために実施される支援活動を民族誌的に研究するという関心は、本研究と共通である。今後はこれらの研究や、その他の類似した関心をもつ研究を視野に入れ、さらにグローバルな現象として社会的包摂を分析かつ推進する研究が必要であろう。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

Suzuki, Motoi (鈴木 紀), Fair Trade Tourism: An Effective Approach to Promote Solidarity between Producers and Consumers. *Minpaku Anthropology Newsletter* 36:7-9, 2013, 査読無

Kishigami, Nobuhiro (岸上 伸啓), The Inuit's Migration Patterns and Drastic Population Increase in Urban Centers of Canada. *Canadiana* (In Klaus-Dieter Ertler and Patrick Imbert (eds.) *Cultural Challenges of Migration in Canada*) 12: 65-73, 2013, 査読有

陳 天璽, 日本における無国籍者の類型、移民政策研究 5:4-21, 2013, 査読有

鈴木 七美、生の関心と養生の展開、民博通信 136:10-11、2012、査読無

関根 久雄、「感情」への接近：「ありのまま」のリアリティ、民博通信 136:18-19、2012、査読無

CHEN Tien-shi (陳 天璽)、Statelessness in Japan: Management and Challenges, Journal of Population and Social Studies 21(1): 70-81, 2012, 査読有

鈴木 紀、フェアトレードを可視化する-コーヒーとカカオの生産現場から、民博通信 133:22-23、2011、査読無

〔学会発表〕(計 22 件)

Suzuki, Nanami (鈴木 七美)、International Perspectives on the Amish. International Conference Amish America, 2013年6月7日、Young Center for Anabaptist and Pietist Studies at Elizabethtown College, USA

Suzuki, Motoi (鈴木 紀)、Fair Trade Tourism: from Market-driven Ethical Consumption to Ethical Encounter between Global Citizens. The 73rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology, 2013年3月21日、Denver, USA

Kishigami, Nobuhiro (岸上 伸啓)、Homeless Inuit of Urban Centers in Canada: Results from Montreal Research. The 73rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology, 2013年3月21日、Denver, USA

CHEN Tien-shi (陳 天璽)、Research and Support of Stateless People: The Role of Anthropology. The 73rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology, 2013年3月21日、Denver, USA

鈴木 紀、フェアトレードの「支援の言説」と人類学的支援、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012年6月23日、広島大学

岸上 伸啓、カナダにおける都市先住民イヌイトをめぐる支援活動、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012年6月23日、広島大学

白川 千尋、青年海外協力隊をめぐる支援活動、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012年6月23日、広島大学

関根 久雄、人類学的評価という協働-ある「支援」の試み、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012年6月23日、広島大学

陳 天璽、日本における無国籍者をめぐる支援活動、日本文化人類学会第 46 回研究大会、2012年6月23日、広島大学

〔図書〕(計 8 件)

陳 天璽 他、世界における無国籍者の人権と支援-日本の課題-国際研究集会記録、国立民族学博物館、2014年、229(3-6, 9-13, 111, 121-125, 129-133, 225-226)

鈴木 紀 他、国際開発と協働-NGO の役割とジェンダーの視点、明石出版、2013年、273(13-35)

Suzuki, Nanami (鈴木 七美) 他、Anthropology of Aging and Well-being: Searching for the Space and Time to Cultivate Life Together, 国立民族学博物館、2013年、174(143-160)

関根 久雄 他、グローカリゼーションとオセアニアの人類学、風響社、2012年、342(257-274)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鈴木 紀 (SUZUKI MOTOI)

国立民族学博物館・民族文化研究部・准教授
研究者番号：40282438

(2) 研究分担者

岸上 伸啓 (KISHIGAMI NOBUHIRO)

国立民族学博物館・研究戦略センター・教授
研究者番号：60214772

鈴木 七美 (SUZUKI NINIMI)

国立民族学博物館・先端人類科学研究部・教授

研究者番号：80298744

関根 久雄 (SKINE HISAO)

筑波大学・人文社会科学部研究科・教授
研究者番号：60283462

白川 千尋 (SHIRAKAWA CHIHIRO)

大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：60319994

陳 天璽 (CHEN Tien-shi)

早稲田大学・国際教養学術院・准教授
研究者番号：40370142